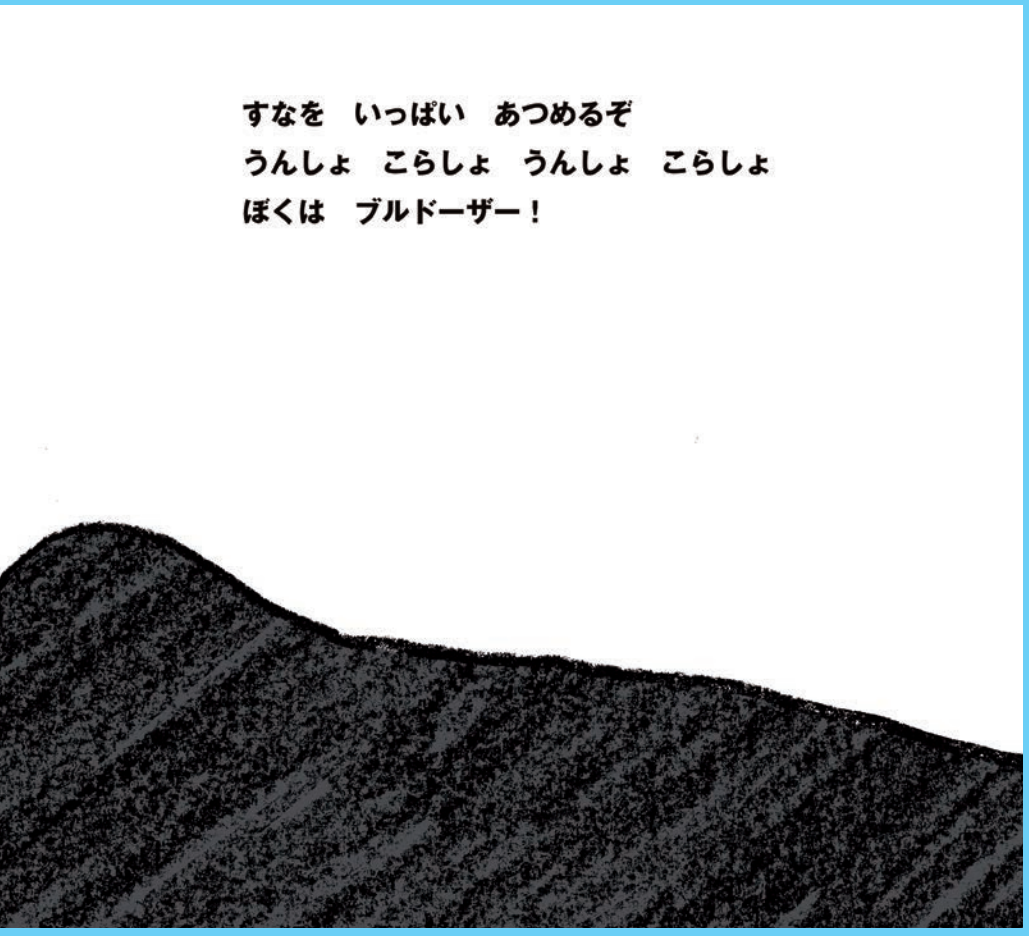
アートの世界を子どもたちに

絵本作家 三浦 太郎氏



『ぼくはブルドーザー！』(こぐま社)より

僕は子どものころから、はたらくクルマが好きでした。大きくて強い力を発揮するところに惹かれたのだと思います。そんなはたらくクルマと砂場遊びの思い出がくっついて、『ぼくはブルドーザー！』という絵本をつくりました。実は大人になった今でも、工事現場があると思わず立ち止まり、新しいクレーン車を発見したときは「ロボットの腕みたいだ！　宇宙に持っていけばこのまま動くんじゃないかな？」などと想像しながらワクワクしています。

『はたらくくるま』シリーズ全3巻『よいしょ』『とどくかな』『まかせとけ』は、初めて絵本を読むような年齢の子どもたちに向けてつくりました。自分の得意とする動きを「よいしょ」とリズミカルに、ときには「とどくかな」と緊張感を持って繰り返すことで大きな作業を完成させます。そして、ほかの重機と連携して「まかせとけ」と助け合うことで、より複雑な作業に対応していきます。はたらくくるまとは、つまり子どもたち自身なのです。自分一人ではまだ何もできないかもしれないけれど、できることをゆっくりと積み重ね、ときには友だちと力を合わせながら、強く生きてほしい。そんな願いを込めて描きました。

僕自身にも娘がいます。幼いころはよく絵本を読み聞かせていました。僕が気に入っているものは、途中で脱線しながら面白おかしく読みます。でも興味のないものだったり、早く寝てくれないかな、とほかのことを考えながら読んでいると、幼い娘に見透かされてしまうんです。絵本は読む人が楽しめてこそ価値がある。そのことを娘か

『はたらくくるま』シリーズ全３巻（偕成社）は７カ国語に翻訳され、世界中の子どもたちに親しまれています。上から『よいしょ』中国語版、『とどくかな』スペイン語版、『まかせとけ』タイ語版。

ら教えられました。絵本は子どもとのコミュニケーションツールであると同時に、趣味のアートブックでもあるので、お父さん、お母さんも本屋さんに行ってご自身で気に入ったものを選び、子どもと一緒に楽しんでみるのも良いのではないでしょうか。

うれしいことに僕の絵本は、世界のさまざまな言語に翻訳されています。日本と海外の反響を比べると、日本人はアートに触れたとき直感で良いね、悪いねというより、教育的に理解しようとする傾向があります。アートとの距離を感じます。子どもたちとアートの接点を深めることができればと考え、最近は子どもたちが自画像を描いたり、僕が子どもたちの肖像画を描くアート活動も始めました。僕はイラストレーターを10年、絵本作家を10年やってきましたが、次はもっとわがままに絵を描きたい、絵本作家の枠に留まらず、クリエイターとしてさまざまな活動を続けていきたいと思っています。（談）

三浦 太郎（みうら・たろう）
1968年愛知県生まれ。大阪芸術大学美術学科卒業。イタリア・ボローニャ国際絵本原画展で入選を重ね、海外でも絵本を出版。『JE SUIS...』（La Joie De Lire／スイス）、『TON』（Edizioni Corraini／イタリア）、『くっついた』（こぐま社）など多数。『ちいさなおうさま』（偕成社）で産経児童出版文化賞 美術賞。名古屋芸術大学特別客員教授。